民主の村

作．阪本定雄

画．安里満

① 労働省婦人少年局製作

村の民主化

民主的な協同組合

1

（農民A）「そうすると、これからの協同組合では、その、文化の方も大いにやる、というわけですな」

（好村）「そうです。そして、これからは、特に女の人たちの働きが大切だと思います。女の人たちはこれまで とかく協同組合の仕事などに不熱心だったやうですが、これからはもつとどんぐ女の人が出て――」

（農民B）「女でも組合に はいれますか」

（好村）「もちろん はいれます。女の人でも子供でも。役員などもどん〳〵女の人が出て、生活の改善とか 文化方面の仕事なども、大いにやらなければならないと思ひます。」

（農民C）「なるほどねエ、村の女もこれからは 役が重いわけだねエ」

（農民A）「さア、それでは 協同組合の話しは 今日はこれで終りとして、實は好村さんに聞こう〳〵と思っていることがあるんだが――なア みんな」

「そうとも〳〵是非聞かせてもらいたいね」

（好村）「何です、いったい、あらたまって――」

（農民A）「つまり好村さん、あなたがこうして なれない百姓になった えらいふんばった、百姓になるのも えらかろうが、よくも決心したものぢや。それにあなたの明るい家庭ニコく 顔の秘けつといふのは、みんなの知りたい、なぞ〳〵ぢや、それは一体 何だね」

（好村）「秘けつとは 又大げさな、なに悪いきつて百姓になると云った時に、妻にね、一つ條件をつけられましたよ」

（A）「へえ、奥さんにねえ！ これは また いったい條件というのは？」

（B）「ほほう――― それが秘けつか、聞きたいねえ」

（好村）「いやあ、簡單なことですよ。つまり、百姓するのだったら、女天下にして下さいと――」

（はやく ぬきながら）

どつと湧く大笑ひ。

2

（A）「いやもうみんなお腹をかかえ大笑いさ。わたしはこっちの隅の方にいて、何で皆があんなに笑うのかわからなかったが、へーえ、ほんとに百姓するなら女天下だって言ったのかね」

ガヤ〳〵ワヤ〳〵村は当分女天下の話に花が咲きました。しかし好村さんの言ったことばー村の婦人は町にくらべるとお話にならないくらいに眞剣な働きをしています。

村の嫁は誰かの話しじやないが、ごまねずみのように、

（ぬきながら）

③

くるくる目のまわるほど働いて立居に如才がなくて腹が立ってもにこ〳〵笑って文句は言はず、ときには便所で泣くという話。好村さんは「まさかそれほどではないでしょうが」と言ってはいたが、それほどではないにしても、何かめいめいに考えさせられるものがある。

（西の家のおばさん）

「そりや、わたしたち女は大変だけれど、男だって羊寄りだって、根かぎり、ぶったおれるまで働いて、働きぬいてそれでやっと、食うや食わずでやってきたんだ。ねえ、父さん、父さん少しは樂をして来たかね」

（西の家のおじさん）

「ウーン？ウーム」

（おばさん）

「そうだろう？それを秘けつだとか女天下だとか浮いたような話だ」

（勉）

「だけど母さん、あの好村さんの家は何だか明るくて氣持がいいようだね」

（おばさん）

「何がおまえと、そこえ「今日は」

（ぬきながら）

4

（となりのおばさん）
「西の家のおばさん、行ってみないか」
（とくさん）
「何がつて、それ、好村さんの女天下の見学だよ」
（西の家のおばさん）
「ばからしい、この忙しいのに」
（となり）
「だつてわたしはもう氣になつて氣になつて、いじやないか、好村さんの話、えー長く町で暮してきた者からみると村の女の立場はほんとに氣のどくだつて」
（とくさん）
「村の女は一人で三役だつてさ、ほんとうだ。子供を育てる、台所に針仕事、おまけに畑も蚕もやる。よくこれで、わらぞうりみたいにすりきれてしまわなかつたもんだ」
（となり）
「だから女天下ーねえ西の家のおばさん。行つてみようよ」
（西の家）
「いかないよ、家ぢや男も女も大忙ーだ」
（となり）
「がんこだねえ、相変らず、じや わたしたちだけでのぞいて来るよ」
（しずかにぬく）

5

（短い間）

（好村）「ほう、こりやこつてる」

（好村夫人）「あら、見られますよ、人に」

（好村）「かまうものか、夫婦だもの。しかしお互に羊だねえ」

（夫人）「それにやつと一年生ですものね。手のまめはいゝとして肩のこるのはほんとうに——でも、もう沢山ですわ。誰かに見られると——」

（好村）「何の……平氣だ〳〵」

なに平氣なものか。向うのほうから氣になつて〳〵しかたのない人たちがせつせと近ずいてくる。

（はやく ぬく）

6

（短い間）

（とくさん）
「やれ〳〵、なるほど、奥さん、ひる日中、女天下ですかな」

（好村夫人）
「え、？まあ、変なことを」

（となり）
「でも、なあ、村中の大評判だもの」

（とくさん）
「あ、あ、うらやましい」

（好村）
「いや、どうも、ほら、この間の晩の、公民館のときの話だ。わたしのことばがまずかった。女天下の條件て、何も坐ぶとんのことじやなかつたんだが」

（夫人）
「あ、あの時のお話しですか。わたしの條件というのはつまり、男女平等っていうことを言っただけなんですよ。つまり男も女も平等に！苦労も楽しみも公平にわけあうっていふだけのことなんですよ」

（好村）
「そう、そうです〳〵、何もけつしてざぶとんではないんで！」

（ぬく）

7

西の家のおばさん「うるさいね、この子は。兄ちやんたちと遊んでおいでうたら、ほんとにこの忙しいのに、見学だなんて御苦労な事だ。それで當てられてくれれば世話なしだ」

勉「だけど、母さん、大変だなあ、そうして一日中ー」

おばさん「大変だとも、百姓はみんなー父さんだってちよつとでもひまがあつたか。村は景氣がいいの、田畑は別けたのというが、いつまた逆もどりするか、若い者が浮いたようなこと言つていると、またえらい目にあうぞ」

（はやくぬく）

あつたか。

8

おばさん「あれ、また泣かせたのか、清！」

友子（泣きながら）「清兄ちゃん、わたしにみんなしよわせて、いばるんだものう」

清「だって友子ったら、女のくせに言うことを聞かないんだ」

おばさん「うるさいよ！小さい者をいじめるじやない！さ、治もつれて、おとなしく遊ばせてやれ！」

清「だって、友子ったら、女のくせに生意氣なんだ」

「うるさいつたら！」（ぬきながら）

9

おばさん「女のくせに生意氣だとは何だ！男でも女でも同じだ！

（間）

同じだ！子どもは！何だ！子どものくせに！」

（短い間）

しかつて見たが、われながら、ちよつとおかしい、女と男と子どもと——女のくせに、子どものくせに、男のくせに——どうもおかしい——

（ぬきながら）

少しどころか大変おかしいようだ。

家事

育児

労働

10

（勉のひとりごとのように）

女は三役、田畑は男もやるが、子どものことと家のことは、余分な重荷だ。そりやあ、父さんだつてひまなしに働いている。しかし畑からへとへとになつて歸つてやつと飯がすむと、父さんが一ぷくする間に、母さんは後片付けだ。それから子どもの世話やつくろいものだ。父さんも夜なべをする。しかし大事なことは男がきめる。寄合いでお客に坐つて酒を飲むのは男だ！そうだ！男と女が平等になつただけでは貧乏は抜けられない。だけれども女はやつぱり貧乏ぐらしの一番どん底なんだ。どん底から引きあげて男も女もいつしよになつて、貧乏ぐらしをつき破るんでなくてはいけない——なかなかどうして勉君頭がよろしい。

（ぬく）

11

頭のよい勉君も、がんこの母さんも、かけすみたいにおしゃべりのおばさんも、誰も彼も泥まみれになつて夢中で働いてやうと田植もすんで——

おばさん「この分じや、お天氣の都合もよさそうだ」

とくさん「そうだとも、ま、お互に一安心だ」

となり「ねえ、西の家のおばさん。好村さんのところで、今日は家族會議だそうだ。見学に行つてみようよ」

おばさん「家族會議？　また何をするんだか」

とくさん「家中の相談だと。その男女平等で。何でも相談できめるのだよ」

おばさん「え」

とくさん「ねえ行つてみよう」

おばさん「忙しいが、まあ、折角だ。行つてみるか」

（ぬく）

これは好村さんの家族會。今日の議長は花子さんです。

花子「どうぞよろしく。でわ、はじめます。今夜の一番の問題は田植が終ったのですから、お仕事の分担をまた平常にもどすので、その相談です。それから、いつもくりかえすことですが、考えていることは、ずんずん卒直に述べること。人の意見が正しくあるようにし、そして決ったことは必ず實行しましょう。それから、美智子ちやんは發言權は認めますが、決議權は認めません。たって何でも無條件でお母さんについてしまうんですもの、異議はありませんか？」

（ぬきながら）

というようなわけで、さつそく、その翌る朝から

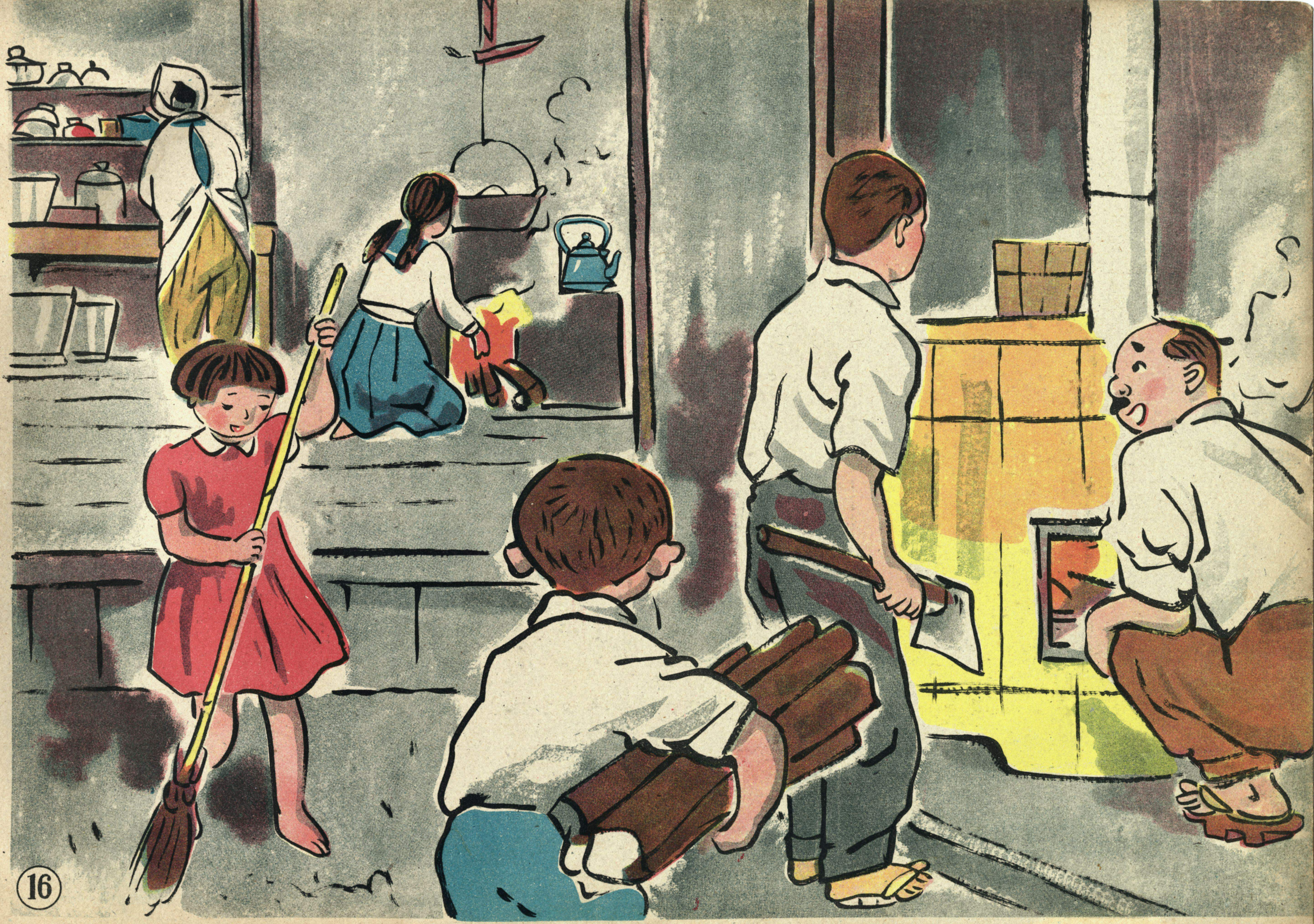
何といつても朝御飯の仕度はお母さんと姉さんの受持です。美智子の小さい頃は、お父さんが子守役でしたが、今では特別に朝寝を認められました。それでも（好村）「やあお早やう。何かしようかね？　うむ。年をとると、早く目がさめる」なかなかどうして感心なものです。

（ぬく）

朝の食事は皆いつしよにすませて、
お父さんは朝御飯前も畑に行っていた
が、御飯がすむとまたさつそく行って
しまいました。皆を送り出してから、
お母さんは食事のしまつに洗濯、家の
こと、子供のことで、なか〳〵大変で
す。お母さんも、野良の仕事はします
が、それよりもこつちのほうが、優先
第一、

ことに夕飯の前は大忙しで、

（ぬきながら）



そこを皆でよく理解しあつて協力します。そして、この樂しそうな夕御飯。

花子のひとりごと「わたしたちはしあわせだ。これもお父さんがよく理解しているからだわ。家庭っていうものは、こうでなくてはいけないわ、わたしの夫は断然理解ある人にきめたわよ。」

理解ある人にきめた、花子さんは断固決心しながらもう一ぜんお代りです。

たしかにしあわせだ、と 太郎さんも考えます。

太郎のひとりごと「村の人たちの場合はなかなか大変なわけだ。これまで村をしめつけていた貧乏や封建的な勢力――しかし、男女が平等になつて、互に人格を認めあつて、互に尊敬しあつていくことはどうしても必要だ。それだけで幸福になれると思つたら大間違いだが、お父さんが口ぐせにいう、村の民主化はまず婦人の解放と農地の解放から、というのは、やつぱりほんとうだ。僕もこの手でいこう」

勉君も断固決心です。

（ぬきながら）

太郎君の考えることも、勉君の考えることも、だいぶ似かよつて來ているようです。

そこを皆でよく理解しあつて協力します。そして、この楽しそうな夕御飯。

花子のひとりごと「わたしたちはしあわせだ。これもお父さんがよく理解しているからだわ。家庭っていうものはこうでなくてはいけないわ、わたしの夫は断然理解ある人にきめたわよ。」

理解ある人にきめた、花子さんは断固決心しながらもう一ぜんお代りです。

たしかにしあわせだ、と太郎さんも考えます。

太郎のひとりごと「村の人たちの場合はなかなか大変なわけだ。これまで村をしめつけていた分厚な封建的な勢力――しかし、男女が平等になつて、互に人格を認めあつて、互に尊敬しあつていくことはどうしても必要だ。それだけで幸福になれると思ったら大間違いだが、お父さんが口ぐせにいう、村の民主化はまず婦人の解放と農地の解放から、というのは、やつぱりほんとうだ。僕もこの手でいこう」

勉君も断固決心です。

（ぬきながら）

太郎君の考えることも、勉君の考えることも、だいぶ似かよつて來ているようです。